

## <報道発表資料>

カテゴリー：お知らせ

令和4年6月17日

かまくらかいどうかみつみち  
「鎌倉街道上道」の国史跡への指定および  
ごぼうやま  
「午王山遺跡」の範囲の追加指定について

(同時発表：文部科学省記者クラブ)

国の文化審議会（会長：佐藤 <sup>まこと</sup>信）は、令和4年6月17日（金曜日）開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、毛呂山町に所在する「<sup>かまくらかいどうかみつみち</sup>鎌倉街道上道」を史跡に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。また、併せて、すでに指定されている和光市の「<sup>ごぼうやま</sup>午王山遺跡」の範囲の追加指定についても答申しました。

答申された文化財は後日行われる官報告示を経て指定されます。これにより、国指定史跡の総数は1,881件になり、県内の国指定史跡は23件になります。

毛呂山町での国指定史跡は初、また、街道を中心とした国の史跡指定は県内初となります。

### 【史跡の新指定】

#### 1 鎌倉街道上道

○所在の場所 入間郡毛呂山町大字市場906番ほか

○指定面積 86,496.96㎡

○特徴・評価〔提供用写真別紙〕

鎌倉街道は、鎌倉時代から室町時代にかけて整備された鎌倉と関東諸国を経て各地を結んだ主要街道の総称で、鎌倉から<sup>むさしのくに</sup>武蔵国・<sup>こうずけのくに</sup>上野国を経て<sup>しなのくに</sup>信濃国・<sup>えちごのくに</sup>越後国へ向かう街道を「<sup>かみつみち</sup>上道」と呼びました。

今回指定されるのは、毛呂山町域の上道で、街道跡は北から鎌倉街道B遺跡・同C

遺跡・同A遺跡・<sup>ほとけざか</sup>仏坂遺跡の総延長1,305.9m、B遺跡を挟んで両側に広がる<sup>どうやました</sup>堂山下遺跡、その西側の<sup>すうとくじあと</sup>崇徳寺跡と想定されている<sup>すうとくじあと</sup>箇所、堂山下遺跡と崇徳寺跡の南側に広がる<sup>かわかど</sup>川角古墳群の一部からなります。

街道跡では、路面や側溝など道の遺構が良好に保存されています。中世の集落跡である堂山下遺跡は、同時代の文献史料にみられる<sup>にかばやしじゆく</sup>苦林宿の跡である可能性が高く、12世紀末から15世紀までの遺物が見つっています。崇徳寺跡とされる箇所では墓域中心部において<sup>いたび</sup>板碑を立てて固定した跡が39箇所確認されています。また川角古墳群でも中世板碑が確認され、特に22号墳は崇徳寺跡の墓域造成の基準となった可能性があります。中世段階の川角古墳群のうち上道に直交する墳丘の範囲は、苦林宿の内と外を隔てる境界としての役割を担っていたと想定されます。

このように、鎌倉街道上道は、中世の街道の遺構が良好に保存されているだけでなく、宿場と墓域、その境界という一体的な空間が残り、中世の街道の状況を明らかにする重要な遺跡として評価されました。

○本件の詳細に関するお問い合わせ先

毛呂山町歴史民俗資料館 電話049-295-8282（直通）

## 【史跡の追加指定】

### 1 午王山遺跡

○所在の場所 和光市新倉3丁目2835番1ほか

○追加指定後の面積 18,030.01㎡（2,264.41㎡を追加指定）

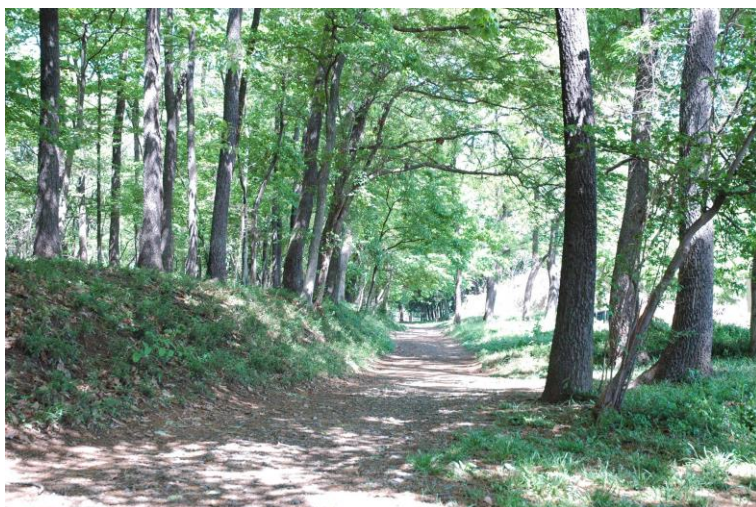
○特徴・評価〔提供用写真別紙〕

荒川を望む独立丘陵上に位置する弥生時代後期を中心とする大規模<sup>かんごう</sup>環濠集落で、多数の<sup>たてあなたてもの</sup>竪穴建物跡と丘陵縁辺部に掘られた多重の環濠が見つっています。今回は、丘陵上の一部で条件の整った区域を追加指定するものです。

○本件の詳細に関するお問い合わせ先

和光市教育委員会生涯学習課・文化財保護担当 電話048-424-9119（直通）

【毛呂山町 鎌倉街道上道】



鎌倉街道B遺跡 川角・大類の掘割遺構（毛呂山町教育委員会提供）



崇徳寺跡南墓域で発掘された板碑列（毛呂山町教育委員会提供）



堂山下遺跡でみつかった井戸跡  
（毛呂山町教育委員会提供）



【和光市 午王山遺跡】



和光市午王山遺跡 全景（北東より）（和光市教育委員会提供）